

専門研修プログラム名	NOZOE精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	のぞえ総合心療病院	
プログラム統括責任者	吉島秀和	

<p>専門研修プログラムの概要</p>	<p>福岡県南部の久留米市にある「のぞえ総合心療病院」を基幹病院とした研修プログラムである。のぞえ総合心療病院は日本では稀な治療共同体に基づく多職種による力動精神医学的チーム医療を実践している民間精神科病院である。常時対応型の精神科救急病院として24時間体制で速やかに救急患者を受け入れ、1~2ヶ月の短期入院治療を可能にしている。疾患は統合失調症、感情障害、アルコール、薬物依存、摂食障害、人格障害などありとあらゆる疾患を経験することが可能である。また、薬物療法は低用量、単剤化を病院全体で取り組み、持効性注射剤の導入、ECTやクロザピン治療も積極的に行っている。基幹病院は新専門医制度が始まる前から精神科研修医を数多く受け入れてきた実績があり、様々な研修システムによって、専攻医が自然に臨床能力を養っていくことを可能にしている。基幹病院と同じグループの「のぞえの丘病院」は福岡県唯一の児童思春期病棟の認可を受け、児童思春期のデイケア、院内学級も開級している。この2つの病院での研修が基礎となることで、指導医は専攻医の成長を継続して見守ることが出来て、専攻医は十分な経済的な保障のもと、研修に専念することが出来る。3年間の研修プログラムを通して、超急性期から慢性期の全ての病勢期、児童から老年期までのあらゆる年齢の精神疾患を経験する。また、専門医取得のみならず国家資格である精神保健指定医の症例についても、症例の獲得は十分に可能であり、3年後の研修終了後に専門医の資格取得と同時に精神保健指定医の資格取得を目指すことになる。精神科専門医としての知識だけでなく、治療チームの中での役割と責任を学び、精神疾患の系統的な理解や治療のみならず、生物・心理・社会的側面の多方面から患者を診ていく精神科専門医として臨床的能力を養い、社会人としても成長していくことを目指したプログラムである。</p>	
<p>専門研修はどのようにおこなわれるのか</p>	<p>初年度は当基幹病院にてコアコンピテンシーの習得など精神科医師としての基礎的な素養を身につける。患者及び家族への面接技法、疾患の概念と病態理解、診断や治療計画、補助診断、薬物・身体療法、精神療法心理社会療法、リハビリテーション、関連法規に関する基礎知識を学習する。典型症例の入院患者3~5名程度の主治医となり、臨床経験を通して診断から治療の実践を学ぶ。2年次は福岡県で唯一の児童思春期病棟を持つ、基幹病院と同じ法人グループ病院であるのぞえの丘病院での研修を6ヶ月程度行い、更に臨床経験を増やしていく。さらに、広島県の瀬野川病院、長崎県の小島居諫早病院、大分県の丘の上病院、岩手県の未来の風せいわ病院、香川県のこころの医療センター五色台の中から一つの病院を選択し、精神医療の地域性やその病院の得意とする分野で精神医療の臨床経験を上げていく。3年次には基本的には基幹病院での研修を再開し、入院患者8~10名程度の主治医となる。地域中核精神科病院である当基幹病院で現場の実践を通じた精神医療の実際を学習する。精神科救急当直に参加して指導医とともに非自発入院患者への対応、治療方略、家族面接などに従事する。指導医のスーパーパイプを受けながら、単独で入院患者の主治医として責任を持った医療を遂行する能力を高めていく。また、逆に後輩の指導にあたることで、自らの臨床能力を確固たるものにしていく。</p>	
	<p>修得すべき知識・技能・態度など</p>	<p>研修実績管理システムを専攻医、指導医が相互に確認し合いながら、精神科医として修得すべき知識、技能、態度を3年間の専門研修を通して到達出来るようにしていく。</p>

専攻医の到達目標	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	専攻医はチーム医療を行っていく上でのリーダーとして、患者の治療に責任をもって診療にあたる。その中で朝の全体診療会議や症例検討会において、治療の現状や課題、今後の方針を適切に発表することが出来る。
	学問的姿勢	専攻医は医学、医療の進歩に遅れることなく、常に自己学習することが求められる。患者の日常的診療から浮かび上がる問題を日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決できない問題についても、積極的に臨床研究や基礎研究に参加することで、解決の糸口を見つけようとする姿勢が求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例について指導医と話し合い診療を進めていくことを基本とする。その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの自ら学び考える姿勢を心がける。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	精神医療を専攻するにあたって倫理性、社会性の向上に努めることは臨床家として大事な素養である。のぞえ総合心療病院では多職種による力動的精神医学的チーム医療を学び、スタッフチームのコンダクターとして、医師としての常識ある態度、役割や責任について学習していく。医者からの一方向の指示ではなく、医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士のスタッフチームを作り、他職種からの意見を謙虚に受け入れながら、共に治療の方向性を決定していく姿勢を学ぶ。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	精神医療を学ぶうえで、様々な地域で一定以上の教育研修体制が整った病院で研修を行うことは、その地域の精神医療の現状や特徴を知ることが出来て、広い視点で精神医療を論じることが出来るようになる。そこで、本研修プログラムではのぞえ総合診療病院、のぞえの丘病院での研修を基礎として、各専攻医の要望を聞きながら、2年次は様々な地域の教育体制の整った病院を連携病院として臨機応変なローテーションの調整を行っている。
	研修施設群と研修プログラム	ローテーションでは地域精神医療を経験することで広い視点で判断出来る精神科医を育てていく。福岡県では久留米大学病院精神科、宮の陣病院、広島県の瀬野川病院、大分県の大分丘の上病院、長崎県の小鳥居諫早病院、香川県のこころの医療センター五色台、岩手県の未来の風せいわ病院が連携施設となっている。
	地域医療について	精神科地域医療に従事して地域ごとの実情を知ること、は、精神科専門医を目指す専攻医にとって重要なことである。
専門研修の評価	研修実績管理システムに研修実績を登録し、指導医による形成的評価、フィードバックを行います。また、原則、6ヶ月ごとにカリキュラムに基づいた研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医が相互に確認して、その後の研修計画、目標を見直しを行う。	
修了判定	研修実績管理システムに研修実績を登録し、3年次の研修終了前の時点で統括責任者と専攻医が目標達成状況を確認し合う。その達成状況をもとに研修管理委員会にて最終の修了判定を行う。	
	専門研修プログラム管理委員会の業務	専門研修プログラム管理委員会医において個々の専攻医に対する研修状況について管理、改善を行う。また評価のみならず指導内容についても専攻医と情報を共有し、定期的に評価して改善を行う。

専門研修管理委員会	専攻医の就業環境	基幹施設の就業規則に基づき勤務時間あるいは休日、有給休暇などを与えます。連携施設では、各施設が定めた就業規定に則って勤務します。
	専門研修プログラムの改善	研修施設群内における連携会議を定期的に行い、問題点の抽出と改善を行う。また、専攻医の意見や評価を専門医研修プログラム管理委員会で検討して、プログラムの修正を検討していく。
	専攻医の採用と修了	専攻医の採用はのぞえ総合心療病院での体験研修の様子および当日に行われる面接で決定する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	専攻医から何らかの理由で研修の休止、中断、プログラムの移動などの申し出があった場合には、適時、臨時の専門研修管理委員会を開催し、専攻医にとって不利にならないような方向性を検討する。
	研修に対するサイトビジット (訪問調査)	今後は他の基幹病院とも連携をとって互いの研修プログラムをより良いものに見直すようなサイトビジットの導入を検討している。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。	堀川公平、のぞえ総合心療病院、院長、坂口信貴、のぞえ総合心療病院、統括部長、吉島秀和、のぞえ総合心療病院、診療部長、堀川智史、のぞえ総合心療病院、副医局長、堀川直希、のぞえの丘病院、院長、連理貴司、のぞえの丘病院、診療部長、瀬野川病院、院長、津久江亮太郎、大分丘の上病院、院長、帆秋善生、こころの医療センター五色台、佐藤仁、理事長、未来の風せいわ病院、智田文徳、理事長	
Subspecialty領域との連続性	のぞえ総合心療病院とのぞえの丘病院は日本精神科救急学会の認定制度認定施設である。また日本児童青年精神医学会、九州精神神経学会、九州集団療法学会、日本集団療法学会、司法精神医学会などの学会への入会が推奨され、それぞれの専攻医の希望にそったSubspecialityが準備されている。	